47都道府県サッカー人国記 連載30

ケンミンの誇り

文◎国吉好弘（本誌スーパーバイザー）

岩手県

八重樫、古前田、小笠原 優れたゲームメーカーを輩出 盛岡商も日本一に

遠野高がまず全国レベルに 菊池兄弟もJで活躍

岩手県出身のサッカー選手と問われたら、現在ならまず小笠原満男（鹿島）を思い浮かべるだろう。しかし、1968年メキシコ・オリンピック以前からの事情を知るオールドファンなら、真っ先に八重樫茂生（1933年生まれ）を挙げるはずだ。

もちろん、ともに日本サッカー史に残る優れたミッドフィルダーであることは間違いない。小笠原は2002年、06年と2度のワールドカップに出場し、イタリアのセリエAでもプレー、鹿島アントラーズに多くのタイトルをもたらしている。日本代表としてもAマッチに53試合出場しており、岩手県出身選手としては最多だ。

一方、八重樫はAマッチ出場こそ45試合だが、この連載でも何度か指摘しているように、まだ日本代表が国際Aマッチをなかなか組めない時代の選手で、クラブチームなどとの対戦を含めれば代表としてプレーしたのは148試合にも及ぶ。メルボルン、東京、メキシコと、3度のオリンピックに出場した唯一の選手でもあり、東京、メキシコではキャプテンも務めた。若い頃はストライカーで、次第に中盤に下がって卓越したゲームメークを見せるようになった。すでに日本サッカー殿堂入りも果たしている「レジェンド」だ。

八重樫が盛岡一高を出たのは52年（昭和27年）のことで、当時は盛岡が県サッカーの中心だった。30年ベルリン・オリンピックではコーチを務め、後には早大の監督として川淵三郎、釜本邦茂ら多くの代表選手を育てた工藤孝一（故人）が盛岡在住中にサッカーを広めたからだ。

しかし、この後ほどなくして遠野がサッカーの町として名を馳せるようになる。その象徴的存在である遠野高が57年度に初めて高校選手権に出場し、そこから6年連続で全国へ駒を進めた。その中で61年度には決勝へ進んで全国的にも強豪として知られるようになり、68年度にもベスト4へ進出した。このときのチームで活躍したのが古前田充（50年）で、大商大を経て日本リーグ（JSL）の藤和不動産（後にフジタ）入りし、柔らかいタッチと広い視野でゲームメーカーとして、キャリアの終盤にはリベロとして、チームの黄金時代構築に大きく貢献した。また古前田の1学年下の和村信男（50年）も、やはり大商大を経てマツダでプレー、冷静なパスワークで活躍した。

遠野からは、しばらく後にも及川浩二（62年）が国士大を経てNKK入りし、センスある攻撃的MFとして、長く低迷してきたチームがリーグの優勝争いをするようになる上で大きな力となった。また、JSLからJリーグへ移行する時代には、身体能力の高いDF五十嵐和也（65年、古河他）、大型ストライカー岩渕弘幹（66年、富士通他）、兄弟でヴェルディ川崎のJ開幕以降の活躍に一役買ったGK菊池新吉（67年）、利三（73年）もいる。

名将・齋藤監督の下 盛岡が盛り返し、大船渡も

遠野高は05年度にも選手権でベスト4に進出するように、常に強豪校としての地位を維持しているが、高校選手権が首都圏開催になった頃からは盛岡商高が県内の主導権を奪った。その要因は優れた指導力を持つ齋藤重信監督が順天大を経て母校に赴任し、チームを強化したからだ。80年代初めまでは遠野高との2強だったが、84年度から6年連続出場を果たして県内をリードした。齋藤はこの直後に大船渡高へ転任となるが、ここでも前出の小笠原を育てるなど手腕を発揮。同校を3度選手権に導いて、その存在感をより大きくした。

そして、再び盛岡商高へ転任になると、一時期落ち込んでいたチーム力を戻し、06年度には県勢として初めて全国優勝に導いた。盛岡商高―大船渡高―盛岡商高と率いる中で、JSL時代には吉田暢（65年、古河他）、日立入りしながら事情あって帰省し一線では活躍できなかったが、ユース代表にも選ばれストライカーとしての資質は同年の武田修宏（V川崎他）をしのぐという声もあった中村司（65年）らを育て、Jリーグには今野章（74年、川崎F他）、中田洋介（仙台他）、山本脩斗（磐田）、林勇介（浦和）らを送り込んでいる。

盛岡商高からは、齋藤が赴任する以前にも、GK瀬田龍彦（48年、日立）、DF宇南山岩男（49年、古河）らがJSL時代に活躍。特に瀬田は当時としては破格の大型GKとして卒業後すぐにレギュラーとなり、日本代表としても長くプレーした。

その他では、常に県内の3番手、4番手を維持してきた釜石南高から、選手としてよりも監督として優れた手腕を見せている三浦俊也（大宮他）、齋藤が大船渡へ転任となった数年の群雄割拠の時代に台頭した盛岡市立高からFW鳴尾直軌（74年、新潟他）らが出ている。

また、08年度の選手権には不来方（こずかた）高が出場、前出の吉田暢監督率いるグルージャ盛岡がJリーグ入りを目指し、Fリーグにはステラミーゴいわて花巻が参加するなど、新しい風も吹いている。

（文中敬称略）

くによし・よしひろ●本誌スーパーバイザー／1954年11月2日生まれ、東京都出身。83年よりサッカーマガジン勤務。99年よりワールドサッカーマガジン編集長。入社後現在に至るまで一貫してサッカー関連誌の編集に携わる。86年から4度のワールドカップ、3度の欧州選手権を現地取材。著書に『サッカーマルチ大事典』『オシムに学ぶ』（ともにベースボール・マガジン社）。

岩手県ベスト11

SUB：GK菊池新吉（遠野→V川崎他）、宇南山岩男（盛岡商→古河）、MF中田洋介（大船渡→G盛岡他）、FW岩渕弘幹（遠野→富士通他）
総監督：齋藤重信（盛岡商他）　監督：三浦俊也（釜石南→大宮他）

●お問い合わせの多い、すでに登場した県は以下の通りです（地図の黒い部分）。
北海道（9月30日号）、青森（1/27）、宮城（2/24）、山形（12/9）、茨城（9/23）、栃木（12/30）、群馬（1/6・13）、神奈川（11/25、12/2）、山梨（2/24）、長野（2/17）、富山（11/18）、愛知（12/23）、三重（3/31）、滋賀（9/9）、京都（10/7）、大阪（10/14）、兵庫（10/21、28）、島根（3/10）、岡山（1/20）、島根（3/10）、山口（11/4）、徳島（2/10）、愛媛（11/11）、福岡（3/24）、大分（12/16）、熊本（2/3）、鹿児島（9/16）